

教育

一般社団法人 現代教育研究協会

会 報

50

題字 榎本頼兼氏

平成 8 年～平成 20 年 京都市長

発行所

一般社団法人 現代教育研究協会

〒600-8216

京都市下京区不明通七条下ル

東塩小路 709

TEL 075-371-5081

印刷所 株式会社 三 陽

「長生きの秘訣」 現代教育研究協会へのお誘い

会 長 梶 村 健 二

日頃の御礼

日頃は現代教育研究協会の諸活動に対してご理解、ご協力いただきありがとうございます。協会の会報が今回で五十号を数えることになりました。過去の会報を通して協会の諸先輩方の優れた活動実績にも学びながら、これからより充実した活動を推進してまいりますので、会員の皆様方のより一層のご協力をお願い申し上げます。

戦後七十年

今年は戦後七十年の節目の年にあたります。正月早々京都市内では二十五センチほどの雪が積もりました。家の周り一面真っ白になった景色を見ながら平和の中で



静かな新年を迎えることのできた喜びを感じていました。「罪があっ

てもなくても、我々全員が過去を受け入れなければならない」「過去に目を閉ざす者は、現在にも盲目となる」これは、一九八四年旧西独大統領に就任し、統一ドイツ初の大統領として九四年まで務め、今年一月三十一日九十四歳で逝去したドイツのリヒャルト・フォン・ワイツゼッカー元大統領が敗戦四十年にあたる一九八五年に連邦議会で行われた「荒れ野の四十年」という演説の一節です。二月十一日にベルリンで公式追悼式が営まれました。

前にもましてますますかわりが深くなっているのを感じます。今こうした状況の中で我々は国内外の情報を正確に把握し、自分の頭でしっかりと考える行動することが大事です。そのためには体力、知力、気力を充実させ毎日の生活を送っていかねばならないのではないのでしょうか。

健康の秘訣

人間だれしも元気で長生きしたいと思っています。昨年九月十五日で一〇〇歳以上の高齢者は、全国で五八、八二〇人おられます。では、どうすれば健康で長生きできるのでしょうか。

以前にある会合で武田病院グループの武田道子副理事長から聞いた話です。先生は三つの「かく」を実践することが大事だといわれました。「汗をかく」「モノをかく」「恥をかく」の三つです。

①「汗をかく」

これはもちろん運動をして汗をかくということです。体を動かして適度な汗をかくことで、無理をしないで自分の年齢、体力にあった運動をする、例えば、散歩、ジョギング、水泳、スポーツなど。そのあとの一杯のビールはやはりうまいです。自分一人のできるものもあれば、仲間と一緒にゲームを楽しみながら汗を流すこともあります。スポーツに積極的に参加するためのジムやプール、運動施設などが身近に充実してきています。また近所を歩くのも新しい発見や新たな人との出会いがあり楽しいものです。

②「モノをかく」

これは字をかく、絵をかく、モノを作るなど創作活動をするということとです。作るだけでなく、作品を見る、読む、楽しむこともこれに含まれるようです。これももちろん自分一人でもできますし、教室に通って学びながらも可能です。広く創造的な活動をするということではないのでしょうか。

③「恥をかく」

これは人前に出て人と接触し、交流することです。年齢を重ねるとどうしても家の外に出るのがおっくうになりがちです。家の外に出て近所の知り合いやまた知らない人に出会い、挨拶し、話をする、そのことで普段の自分とは違う自分を発見します。

また、外に出るから家の中の服装ではなく、外用に着替えまします。気持ちも少し緊張します。地域活動やボランティア活動な

どで積極的に外に出て、いろいろな人と出会って話をする事で話題や関心が広がり、自分の知らない世界につながっていきます。

この三つがどのようにして健康につながり、人の活性化に効果を発揮するのかというメカニズムは専門家ではないのでわかりませんが、体を動かし、頭を働かせ、気持ちを高めることは何となく健康につながっていくように思います。

もちろん、そのもとはバランスの良い食事で体力を維持、増進することが大事です。くれぐれも「腹八分目」に、食べ過ぎ、飲み過ぎにはご注意ください。

現代教育研究協会への誘い

現代教育研究協会では年4回の研修会を開催し、学校教育の問題や、社会の国際化にかかわる問題、日本の伝統文化・伝統産業にかかわる問題、さらには環境や人権にかかわる問題などについて多彩な講師をお呼びして学習の場をもっています。

また、一泊研修と日帰り研修も実施し、京都近郊に出かけて文化財に直接触れ、学習し、見聞を広げ、会員相互の交流を広げる場を提供しています。

会員のみなさまに積極的に参加いただくことで、健康で長寿の秘訣である三つの「かく」を実践し、ご自身の生活を健康で充実した豊かなものにしていただくとともに協会の活性化につなげていただければ大変ありがたいことだと考えています。

今年も一人でも多くの会員の皆様とお出合いできることを楽しみにしています。

第一回講演会 平成二十六年五月十日(土)

「小学校英語教育の過去・現在・未来」

京都市教育委員会学校指導課 A・L・T 担当主事 平川 マシユ 氏

本年度最初の講演会は、京都市教育委員会学校指導課 A・L・T 担当主事の平川 マシユ 先生にお願いしました。

先生は一九八〇年(昭和五十五年)アメリカに生まれ、大学で日本について学び、平成十四年に京都市立小学校外国語指導助手(A・L・T)として来日。

以来、京都市立小中学校外国語指導助手(A・L・T)、学校指導課 A・L・T 担当主事を歴任され、文部科学省・独立行政法人教員研修センター等が実施する全国の教員や A・L・T を対象とした研修の講師を務めてこられています。

当日の講演ではアメリカを中心とした海外の教育システムと比較しながら、京都市の小学校英語の今までの変化、そしてこれからの方針について、パワーポイントによる映像を交え熱心にお話しいた



だきました。

大変充実した内容のご講演でしたが、限られた紙面の都合上、先生の意にそぐわない点もあるかと思いますが講演の冒頭部分を中心に概要を報告させていただきます。

はじめに

日本語はネイティブのように話せませんが、自分の感じたこと、思ったことを中心に次の五つの話の流れ…… ① マイライフ ② アメリカで過ごした小学校の思い出 ③ 京都市の小学校英語の過去・現在 ④ アメリカの外国語教育 ⑤ 日本の小学校英語の未来……で話します。

① マイライフ

アメリカに生まれました。世界地図をみても世界は本場に広い。日本の裏側にあるアメリカは日本の二十五倍広い。日本の中でも知らないところがたくさんあるのに、アメリカはその二十五倍もある。私は東海岸のど真ん中にあるノースカロライナ州で生まれました。

アメリカはひとつの国ですが多くの州で成り立っていて、州ごとに法律や文化が違います。だからノースカロライナ人というような感覚が普通にあります。

(海があって山がある美しい街の写真、自分の育った家の写真などを映される、この後ずっと、話の内容に対応した写真や文字の映像がスクリーンに映し出される)

その人口二万五千人ほどのステイビルというゆったりと落ち着いた町に生まれました。

最初日本へ来た時はスケール感の違いに戸惑いました。例えば自分の家と隣の家の距離感みたいなものですが、日本の感覚に慣れると向こうへ帰った時、なんて無駄な部分が多いのかと思いました。州の名物としては京都でも専門の店がありますが、クリスマスケーキのドーナツがあります。そういう場所に育ったのですが、アメリカ人にとって外国語といえばスペイン語です。

アメリカのすぐ南にあるメキシコで話されているのがスペイン語ということがあるからだと思います。最初英語を話さない人たちがいるというのは不思議でした。アメリカ人の特徴というのはアメリカのことしか考えていないということなので(笑)、小学校での外国語(スペイン語)の授業が不思議で新鮮で、興味を持ったのが外国語に関心を持つきっかけでした。

今はスペイン語は話せないのですが、小学生の時に外国語の勉強は面白いなあと思ったのが外国語との出会いです。

日本という国を初めて意識したのはこれも小学生のころにファミコンというゲームが流行り、隣の家の子に見せて貰ったのが「これは日本という国の任天堂

という会社の製品だ」と聞いた時です。マリオを作ったのだから、すごい国なのだろうと思いましたが(笑)。八〇年代に入ってゲームやアニメ、マンガなどのポップな文化を日本が世界中に発信していた、そこから「日本」に入っていた世界の人たちが多いと思います。

高校に入ると同じクラスに日本人が父親の仕事の関係で転校してきて、身近に日本のことを知るようになり、そうして大学生になり、これから何を勉強していくかがなかなか決まらない時に、高校の日本人の友達のことを思い出して、日本語をやってみようかと思いついて日本語の選択授業を選びました。

大学に來ている日本人の留学生とも知り合い、日本に対する興味がだんだんと強く湧いてきました。そして三回生の時に一年間日本に留学しようとして大阪に行きました。

住んでいるノースカロライナ州から殆んど出たこともなく、初めての海外経験です。日本に來たら毎日がびっくりすることばかりでした。日本に來る前に友達が「日本には納豆というすごく不味くて誰も食べられないものがある」と聞いていて、スパーで買って食べてみると期待していたほどに不味いものではなく、まあ普通の味に思いました。

知らないものは怖い、経験したことがないから嫌という人はたくさんいると思いますが、知らないことは素直に白紙の状態で受け止めて、自分が感じて自分自身が判断することが大事なのだと学びま

した。

一年間の留学が終わってアメリカに戻り、卒業に向けて残りの大学での勉強をがんばりました。一年間の留学では日本の表面的なことしか結局はわかりませんでしたので、もっと深く日本のことを知りたいと思うようになり、文科省と外務省と総務省と一緒にやっているジェットプログラムという小中高の A・L・T (ネイティブな外国語の指導助手) を募集している事業に応募しました。

「受かりました、行きますか?」という連絡があり、「行きます」と返事をする、次に「勤務地は京都市です」という連絡がきました。京都は外国人にとっては、日本には東京があつて京都があるというような場所であり、京都市に行けるなんて夢にも思っていなかったもので、大変嬉しく良かったと思っています。

② 自分の小学校時代の思い出

(実際に通学された学校の写真を映しながら、アメリカの教育システムの仕組み、日本との違いなど興味深い話が続く)

③ 日本の小学校英語の過去・現在

(日本で勤め始めた最初は F・L・T と呼ばれ、学校に行っても、何をどうしていいかわからず、教えるというより遊び感覚でしたが、二〇〇五年に A・L・T と呼称が変わり、外国語の指導助手と位置づけがはっきりしてきました。)

今のキーワードは学級担任と「ティームティーチング」です。より良いティームティーチングをめざしての本当のキーワードは「コミュニケーション」であり、よい授業のためにはALTと担任の間の人間関係が大切ではないか、と話が続く。

④アメリカの外国語教育

(アメリカの進んだ外国語教育のシステム、バイリンガル教育の事例、最近注目のマグネツトスクール……公立学校の一つだが広い範囲から磁石のように子どもたちを引きつける学校についてなど、日本の教育の取り組みの参考となるような話が続く)

⑤小学校英語の未来

英語は面白い、だが単純に面白いだけでなく興味をもつてほしい。イギリスの進化生物学者のリチャード・ドーキンスが「虹の解体——いかにして科学は驚異への扉を開いたか?——」という本の中で、楽しいところを乗り越えたところに深いものとの出会いがある、という言葉を記しています。

小学校英語についても、楽しいことばかりじゃなく、そこには個人の努力も必要ですが、面倒で難しい部分を乗り越えたところに本当に多くの興味深いものとの出会いがあります。「面白い」から「深い興味を持つ」段階をめざし取り組んでほしい。

もうひとつそうなればと願っていることに、英語が日常生活の中で身近に溢れているといった環境に日本がなっていけば、誰もが

特別な努力をしなくても日本語と英語を普通に話せるようになるだろうし、そういう環境に少しでも近づいていくことも日本にとって大事なことなのではないかと思っています。

第二回講演会

平成二十六年七月五日(土)

「フジバカマとアサギマダラ」

元京都市立松原中学校校長

藤野 適 宏氏

フジバカマは皆さまよくご存じのように、秋の七草のひとつで山野の水気の多い所に生え、秋に薄紫の花を咲かせます。

そしてアサギマダラは、北は北海道から南は沖縄まで全国至る所で見ることで大変美しい蝶です。見られる季節は地域によって違いますが、それは寒い季節は暖かい地方に、暑い季節は涼しい

最後に、「努力は必要だが英語は面白い」という言葉が小学校英語の未来につながっている、という言葉で講演を締めくくられ、出席者一同から大きな拍手がおくられた。

地方や高い山に、何百キロ、何千キロと移動するからです。特別に好む植物を訪ねながら……

第二回講演会はアサギマダラの会に所属しその生態を調査研究されている、元京都市立松原中学校校長の藤野先生に講演をお願いしました。

先生はパワーポイントを用いてスクリーンに映像を映しながら熱心にお話しくださいました。先生の意を尽くしてない点もあるかと思いますが、ご講演の最初の部分を紹介させていただきます。

はじめに

フジバカマとアサギマダラというテーマで話を進めますが、それぞれについてよく御存じでもこの二つの関係についてよく知っておられるという方は少ないのではないかと思います。いろいろ調べていくと教材としてもすぐれていると思います。

まず名前の由来ですが、フジバ

カマは今映している映像の植物、集合花ですが、ひとつの花から二本の花柱が出て、その色と花柱を見比べて藤色をした袴と考えられようです。

一方のアサギマダラは、この写真のように浅葱色(うすい藍色)をした斑模様の斑蝶科の一員という由来と考えられます。

フジバカマは秋の七草の一つであり、万葉集の山上億良も歌に詠み、源氏物語の巻名であり、京都にとっては身近な植物といえます。しかし、今の時代の人にとっては見た目が地味な花にうつるようです。

しかし、強い芳香を放ちますので、このことが平安時代にもはやされた理由ではないかと思えます。葉や茎を陰干しにしておくと二、三日で、芳香を放ちだします。それを匂い袋に入れていたようです。

現在はどうかというと、京都府では絶滅寸前種になっており、野生でみることは殆んどありません。

フジバカマの普及活動とアサギマダラ

実際に身の回りによく見るものが出来るのは、株分けやさし芽が大変容易な植物(園芸種)で、今フジバカマを増やしているところですが、その原種は大原野神社の片隅にあるフジバカマ園です。

(……フジバカマを増やすという普及活動について現在進められている様々な活動、企業も協賛し、主体的に取り組んでいる活動の紹介映像が続き、誰で

もが参加できる普及活動にとお話が……)

フジバカマは大変増やしやす植物ですが、そういう活動を進めているところには、アサギマダラがやっています。

フジバカマには二つあります。日本在来の原種フジバカマと現在私たちがよく植栽している園芸店で売っている園芸種と呼ばれるものです。

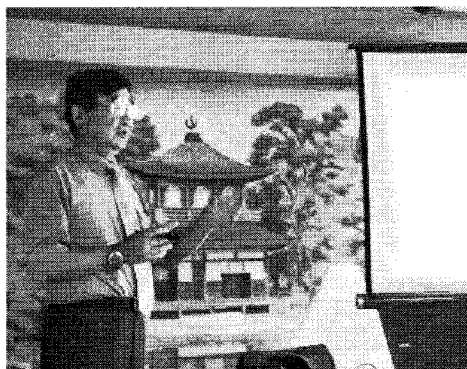
よく言われるのはフジバカマとサワヒヨドリバナの雑種だろうというのですが、一代雑種なので種子は出来ません。しかし原種は九月上旬には満開になってしましますが、園芸種はアサギマダラのやってくる時期の九月下旬から十月上旬に花の咲く時期が一致するのでありがたい種なのです。

もちろん花の咲く時期を、茎を剪定することで遅らせるというようなことも原種についてはやっています(右京区の水尾のフジバカマ園に何百というアサギマダラがやってきているという映像、兵庫県淡路市岩屋でのNHKTVの「ダーウィンが来た」のスタッフのアサギマダラを撮影している映像の紹介が続く)。

フジバカマだけではない

アサギマダラがやってくるのは、フジバカマだけではなく、NHKTVのクルーが撮影している淡路島のこの場所に咲いているのはスナビキソウという九州、四国、本州西部の海岸によくみられる花です。

その他、どんな植物にやってくるのかはツバメのように「渡り」



をする蝶なので、季節と地域によって変わります。寒い季節は暖かい地方に、暑い季節は涼しい地方や高い山に移動するのです。

(季節と地域、飛来する植物名についての説明が続く)

アサギマダラは花の何に誘引されるのか

さて、アサギマダラは花の何に誘引されているのか？ これはヨツバヒヨドリとアサギマダラの写真です。日付は六月三日、花はまだ咲いていませんが八月になると咲きます。

アサギマダラが何をしているか、写真を拡大してみると葉っぱにきてストローを伸ばして、何かを吸っています。次はヒヨドリバナでの六月十三日の写真です。花はまだ咲いていませんがアサギマダラが葉っぱにもぐりこむようにして何かをやっている。

こういうことに普通は気がつきません。そばを通り過ぎた時、たくさんのアサギマダラが急にワーッと飛び立って驚くことがあります。花の蜜以外の何かを吸っているようで、気が付かなかったのです。

これは調べる価値があると、あるときスナビキソウにとまっているアサギマダラを逐一撮影しました。それらの写真を拡大して調べると、合計三十頭のアサギマダラのうち、三頭が花、枯れた花が十一、花のない頂部が九、枯れた葉っぱが四、茎が三、というように花三に対して花以外が二十七でした。

アサギマダラが植物で吸っているのは花の蜜だけではない、他の何らかのものも必要として吸っていることがわかります。そのことと雌雄の違いも関係があると考えられます。ヒヨドリバナに大卒してやってきたアサギマダラ、識別出来る限りにおいては全部オスであり、一方コシアブラの花にやってくるのはオスもメスもきている。

これを花の種類に分けて表にしよう、スナビキソウ、ヨツバヒヨドリ、フジバカマ、ツワブキ、この四種類の花でそれぞれの花にやってくるアサギマダラのオスとメスの割合がどう違うのかを調べてみました。一定の条件下で出来るだけ多くの個体の観察を行いました。

(……このあと、先生がずっと取り組み、観察されてきたアサギマダラについての専門家の研究成果が紹介され、なぜ好んで集まる花の種類についてオスとメスとの違いがあるのか、そしてそこからわかってくること、アサギマダラが誘引され、体内に蓄積される物質の正体とその働きなどの説明が続く。……)

アサギマダラは移動する

アサギマダラのもう一つの大きな特徴として「移動する」ということがあります。

出版されている四冊のアサギマダラについての書物の題に、言葉として「旅をする」「渡りをする」「海を渡る」「なぜ海を渡るのか」という言葉が付けられています。海を渡るという言葉が二冊に使われています。何故海を渡るという言葉が使われるのか？

(……いよいよ、アサギマダラの移動について、その解明の歴史、海外との行き来、とお話は深く、広がっていきます。そのための、マーケティングという標識調査の方法、実際にマーケティング調査をしていて出会った不思議なこと、そしてアサギマダラを広く知ってもら

第三回講演会 平成二十六年八月二十三日(土)

「ハンディを乗り越えて」

つくし法律事務所所長 弁護士 竹下 義樹氏

第三回講演会は、国内で初めて全盲で弁護士になられた竹下義樹氏より「ハンディを乗り越えて」と題した講演をしていただきました。

竹下氏は中学校三年生の時、所属していた相模部の練習中の事故で失明し全盲になった後、弁護士になりたという夢をもち点字による初めての司法試験の実施を実現し、夢を現実のものとされました。

うために行っておられる活動、その実践例などが続きます。……) ※紙数の関係でそれらをご紹介します。出来ないのは申し訳ありませんが、ご講演のあとの質問も大変多く、もっといろいろな話を聞きたいという中で講演会の終了を迎えました。

中学三年で失明

演題がハンディを乗り越えてとあります。ハンディを克服できずに苦しんでいるというのが実態ではないかと思いますが、実際は乗り越えた、克服したと錯覚しているのが今の自分の元気ではないかと思っています。

私は石川県の能登半島の輪島、海岸から十キロ近く山奥に入った、段々畑と山しかない所に生まれました。中学三年の時に元々弱視ではあったのですが、外傷性網膜剥離で失明しました。

失明で自分の人生は大きく変わりました。失明が不幸であり大きなハンディであることは間違いのないのですが、一つの不幸が一人の人生をどう変えたのかを考えた時、自分の周囲の人たちとの出会いにつながります。

担任の先生との出会い

失明したので石川県の盲学校に入学したのですが、盲学校の高一から高三まで持ちあがりの担任で今はもう亡くなられたのですが、斎藤先生との出会いが自分の人生を拓かせたと思っています。

先生はある意味では乱暴だったと思いますが、生徒を伸び伸びさせる教育をする人でした。私自身非常に出来の悪い生徒で、中学校もですが、盲学校に入っても中間、期末テストで赤点をとって、補習を受けさせられる生徒でした。

とりわけ英語、国語は四十点以上とったことがなく、通信簿も3以上の数字がありません。1、2が多く校則も守らない行儀の悪い生徒でした。盲学校ですので、寄



もともとは大陸から琉球を経由



して日本にやってきたのですが、琵琶法師たちがアレンジして今の形の三味線が出来たといわれています。今日は長唄のことを話しますが、お正月ですのとおりあえず「老松」という曲をお聞きたいです。

この曲は杵屋六三郎と言う人が千八百二十年(文政三年)に歌舞伎から離れて初めて素唄(すうた)……素の唄、曲)として作ったと言われている曲で、能の「老松」を題材にしています。世阿弥は文法の間違い等なく素晴らしいものですが、長唄の「老松」は簡単に言えば支離滅裂な歌詞です。

最初は能からとった厳かな唄から始まってだんだん色っぽくなっていき、松の関連で、松となると江戸時代の遊郭では、松の位の太夫となりますので、遊郭の話になつておめでとうございます、で終わるといふ曲です。それが長唄というものかなとも思いますが、とりあえず「老松」を演奏します。

長唄は複数でやるのが普通で最低でも唄と三味線を三人、三人でやりますが今日は一人、一人で演奏します。

長唄の世界で人間国宝の方が長唄の全集をだしておられますが、その方のものでさえ長唄と言うのは長い唄なので退屈なものなのに、人間国宝でもないものの長唄、退屈でしょうがお付き合いください。(長唄「老松」を演奏される)

長唄とはどういうものか

今お聴きいただいた様に他の邦楽と違い長唄には三味線だけが演奏する部分があります。長唄だけがメロディーに重きをおいているといえます。

また清元、常磐津、義太夫、淨瑠璃などには台詞があります。役になりきって、曲の中で台詞を話します。長唄には台詞がなく、姿勢を正して動かずに演奏します。その中でそれなりの雰囲気を出していくのが難しいです。お客さんの目を見たりしてアツピールしてはいけないことになっています。

「老松」は唄として初めてできた曲ですが、それ以前の長唄は歌舞伎の伴奏として出来たものです。歌舞伎の合間にやる狂言小唄という、巷で流行っている唄に三味線の伴奏を付け始めたものが大人気になり、江戸の歌舞伎の中で三味線がなくてはならないものになつていったのです。

もともと歌舞伎は歌舞伎者が茶屋がよいをするのを真似して演じるところから発生したと言われています。そういう意味でも遊郭と長唄、お芝居とは切っても切れな

い間柄にあります。

長唄は能から題材をとったりしますが大抵のものは中間部分で遊女や廓の話がでています。それゆえ長唄の歌詞は一貫性がなく支離滅裂な部分があるのです。

しかし、最近の若手の研究家の中にはそういう見方に異議を唱える方も出てきています。江戸時代の人たちの暮らしを知らずにそういうことを言っているといけない、長唄の歌詞はまず和歌や俳諧を下敷きにして江戸の地誌、遊里文化、流行歌、俗謡、洒落……明治になつての新語などのすべてを歌詞の中に取り込んでいたので、それらを勉強しないで支離滅裂とか話の筋を云々してはいけないといわれるのです。

しかし唄っている者でも、そういったことをすべて理解して唄っている者はいないと思います。ただ言えるのは掛け詞、枕詞を入れて七五調で耳触りのいい言葉にしています。

文化にはいろいろな考え方がありますが、江戸の人は遊びといえど吉原、歌舞伎という時代だったのかなと思います。長唄や歌舞伎で耳触りのいいものに触れて「ああ楽しかったな」ということで人気がもてきたのかなと思います。

「老松」は歌舞伎から離れて、唄として長唄が認められ始めてきた兆しの時の曲です。次は「黒髪」という短い曲を唄います。これは一七八四年にお芝居の伴奏として作られた唄ですが、実は上方、京都の地唄に「黒髪」というものがあり、京都の地唄が江戸に行ったものと思います。ただ、江戸の人

たちは江戸が発祥の江戸長唄だといっています。この曲は遊郭の一人の男をめぐる嫉妬をテーマにしたものですが、最近、若い人でこの曲を解釈したといつて、良いものがあり、ご紹介します。

「黒髪」を現代の言葉で表現したものを話し、長唄「黒髪」を演奏される)

伝承についての取り組み

今、中学校の音楽の教科書に教えずにいけないものとして長唄の「勧進帳」が載っています。長唄を教えられる音楽の先生は皆無に近いので、授業の時はCDを生徒に聞かせるという方法をとられているようです。

文化庁の事業で補助金が出るものがあり、私たちのグループもその事業に申請することになりました。活動の実績がないといけないということで学校の先生方に私たちが長唄を指導するということが始めました。

対象になる事業団体は京都府として一つだったので事業の指定からは外れましたが、やり始めたことなので一年間やろうと「勧進帳」にとりくみました。

最初は十五人ぐらいの音楽の先生達で初めて、最後には七、八人が残りました。そのうちの一人の大変熱心な先生が生徒に長唄を生で聞かせたいということで、加茂川中学校で演奏しました。

先生も三味線を集めてきて、生徒に三味線を体験させてみたりする中で教科書に沿って「勧進帳」を演奏しました。この「勧進帳」は「老松」と同じ作者で、他にも

有名な曲をたくさん作っておられ、天才的な作者です。教科書に載っているのは、全くの部分ですが、そのあたりを中心に聴いていただきます。

また一年間長唄の教室をやつてきて、有志の方がもっと続けたいということで、月に二、三度総合教育センターで「勧進帳」を教えています。この三月二十一日に音楽科の先生達が堀川高校で発表会をされ、洋楽が多い中に去年は「松の緑」、今年は一「勧進帳」を十人ぐらいで発表されます。

この「勧進帳」は歌舞伎の伴奏として台詞は全部役者が言い、長唄は卜書きの部分ですので長唄の部分に意味はありません。

「勧進帳」を知らない人はいないという時代ならそれで通つたでしょうが、今の時代の人にはなかなかわからないということがあります。義経、弁慶、富樫の台詞のあいだの所作の所にだけ長唄がはいります。今日は短い部分ですが聞いていただきます。

(「勧進帳」を演奏される)

……この後も、長唄についてのお話がつづきます。杵屋と稀音家、歌舞伎と国民の音楽、お芝居と演奏会、という変化、その中から生まれた久保田万太郎が作詞した「都風流」を最後に演奏され、講演を終わられた。

参加者から歌舞伎の長唄は男性ばかりで、都踊りなどでは女性だと思いがなぜか? などの質問にも丁寧に答えていただき、講師から出席者全員にCDプレゼントもあり、大きな拍手の中に講演を終わられました。

現代教育研究協会の歩みをふりかえる(その五)

会報の四十六号から四回にわたって、現代教育研究協会の歴史をたどってきた。昭和四十四年に京都市立塔南高等学校初代校長、洛陽工高等学校校長を歴任された森藤吉氏が呼びかけ、営利を目的としない民間の教育研究団体「京都教育研究所」を立ち上げ、その後昭和四十八年には民間の純粋な教育研究団体としてはほとんど唯一の存在であったが文部省より認可を得て、「社団法人 現代教育研究協会」として発足し、現在に至るまでの取り組みの歴史である。

時の文部大臣やノーベル賞受賞者の講演、教育研究に関わったの各地の学校への研究助成、研究紀要、集録の発行、二十周年記念事業の紫式部像の京都府への寄贈、などなど特記すべきことも枚挙にいとまがない。

平成七年の森藤吉会長のご逝去に伴い、御子息の森清史氏の会長代行就任、城森昌二会長、谷口賢司会長を経て、平成二十一年には現在の梶村健二氏が会長に就任された。以降、学校教育と生涯学習の両面にわたって、いろいろな観点から考え学び、外部への情報発信も行うという協会の基本姿勢を基に活動が続けて

いる。

例えば講演・研修会のテーマについては

・学校教育に関わったの今日的な課題

・社会全体の国際化に伴う、国際理解、交流の推進に関わること。

・環境や自然、人権に関わること。

・日本の歴史、伝統文化、伝統産業に関わること。

などの観点を柱立てし、多彩な講師陣に依頼し講演・研修会を開催、多くの参加者と共に学習を重ねてきた。また、春は宿泊を伴う一泊研修、秋は日帰り研修を実施し、学習と共に参加者相互の交流と親睦を深めてきた。その詳細については今会報に記載の通りである。

そして、この間の特記すべき事項として、我が国の法人制度改革に伴い、そして活動の実態を鑑みこれまでの文科省認可の公益社団法人から京都府知事認可の一般社団法人への移行を平成二十五年四月に完了した。

現代教育研究協会の今後については、基本は今ままで変わらず、より一層豊かで充実した内容へとその活動を進めていこうとしている。(丁)

春の研修旅行

平成二十六年四月六日(日)～七日(月)

春の四国を訪ねる旅―大塚国際美術館、金刀比羅宮、善通寺、大鳴門橋記念館、ことひら温泉を訪ねて―

平成二十六年春の宿泊研修旅行は淡路島から四国へと明石海峡大橋、大鳴門橋を渡って四国を訪ねる旅を実施しました。

曇り空の中、午前八時半にバスは京都駅八条口を出発、名神高速、中国道、山陽道と進みます。

高速道路沿いの山桜や休憩に立ち寄ったサービスイリアの桜も見事に満開、小雨の降り始めるなか明石海峡大橋から淡路島南ICへと向かいます。



南ICに着く頃になって雨が降り止み、高速を降りて大鳴門橋の橋脚のそばにある昼食場所に向かいました。橋脚を間近に見る場所では、風に吹き飛ばされそうになりながら太平洋側から瀬戸内海へ入っていく潮の流れの速さに驚き、その後道の駅「鳴門みさき荘」で海の幸満載の美味しい昼食をいただきました。

そして、バスは大鳴門橋を渡り日本最大の常設展示スペース(延

べ床面積約三万平方メートル)を有する陶板名画美術館の大塚国際美術館に到着、ここではおよそ二時間半の時間をかけて館内に展示されている世界の名画の数々をゆっくり見て回りました。

古代の壁画から世界二十五カ国の百九十余りの美術館が所蔵する現代絵画まで、千余点をオリジナル作品と同じ大きさに再現

しています。ヴァチカンのシステリーナ礼拝堂の壁画の再現に息を呑み、館内をめぐるながら「ああこの絵は教科書に載っていた」「これは昔から好きな絵だ」と、いろいろな絵の前で立ち止まり、撮影可能なカメラをかまえた、ゆっくり鑑賞したりというひとときを持ちました。

そのあと再びバスで晴天の下、高松自動車道を善通寺ICまで走り、ことひら温泉の宿「琴参閣」に午後四時前に到着しました。

食事まで時間があるということ、旅装を解き休む人、風呂を楽しみ人だけでなく、金刀比羅宮の御本宮へ七百八十五段の階段を上り、奥の院まで行ってきたという人もいました。そして、みんな揃っての楽しい夕食となり、食事そして歓談と一日目を終えました。

翌朝は、旅館が金刀比羅宮の門前町にあるということで、朝食まで自由参拝を設定しました。

朝早く起き御本宮までお参りしたという人や門前町の散策や買い物を楽しんだ人など様々です。そして午前九時過ぎに旅館を出発、

真言宗善通寺派総本山善通寺に向かいます。善通寺は、開祖空海の父である佐伯善通を開基として創建され、弘法大師、空海の生誕の地とされています。

国指定の重要文化財の金堂や五重塔、宝物館では国宝、重文の寺宝を拝観、そして、真つ暗闇の中を歩み自己を見つめなおすという

「戒壇めぐり」を体験しました。

境内で記念写真を撮った後、善通寺を出発し再び高松自動車道を鳴門へ向かいます。午後一時前には淡路島南ICを降り、大鳴門橋

記念館に向かい、展望レストラン「うずの丘」で瀬戸内の新鮮な魚介をメインにした昼食をいただきました。

その後「うずしお科学館」へ入場し、うずしおの生まれるメカニズムなどを3D映像で楽しみました。

午後二時半に出発、途中「たこせんべいの里」での買い物を楽しみ、淡路ハイウェイオアシスで休憩および買い物をして、午後五時五十分には京都駅八条口に帰着、春の宿泊研修を無事終えました。

秋の日帰り一日研修

平成二十六年十一月十八日 (火)

姫路城・好古園(紅葉)と 播磨の名刹、鶴林寺を訪ねて

平成二十六年秋の一日研修は、播州姫路方面をとりあげました。

「国宝 姫路城」は白鷺城とも呼ばれ、その美的完成度が我が国木造建築の最高の位置にあり、世界的にも類のない優れたものというところで法隆寺と共に平成五年、日本で初の世界文化遺産となりました。

現在、「平成の大修理」が行われていますが、天守閣を覆っていた素屋根が外されて「あまりに白すぎるのでは」と話題になっています。

路に向かいました。

姫路城の駐車場は平日であるにもかかわらず、結構混んでいて、遠くから見るとより白っぽく見える天守閣をながめ多くの観光客がシャッターを切っています。

私たちはお城を背景に集合写真を撮った後、二つのグループに分かれボランティアガイドの引率のもと、木製の花菱が飾られている菱の門から入城し、各門や石垣の説明を受け、千姫ゆかりの西の丸櫓群・長局(百間廊下)の中を見学しました。

一時間の予定でしたので、ガイドの方は時間が足りないので駆け足になるといつておられました。

見学途中に間近に見える天守閣は遠くからと違い、漆喰の白とまっさらの黒い瓦のバランスがと

れ大変美しく足を止め見る人が多くいました。二の丸のお菊の井戸を最後に見て城を後にし、すぐ西にある日本庭園「好古園」に向かいます。

過去の発掘調査で確認された西御屋敷跡・武家屋敷跡・通路跡などの地割を活かした九つの趣向の異なった庭園群で構成され、平成四年に開園された池泉回遊式の約一万坪の日本庭園です。

いずれの庭も紅葉がことのほか美しく、水の流れや、白壁の道に歩みを止めてゆったりとしたひとときを過ごしました。

午後一時近くになり、お城の駐車場を出発し近くの酒蔵「灘菊酒造」に向かいます。現在はその場所での酒造りは行っていないようですが、明治四十三年来の木造の昔ながらの酒蔵で酒造りの説明の後、蔵の二階に併設されているレストランで日本酒の試飲付きの美味しい食事をいただき、売店で買

い物を楽しみました。

その後、バスは加古川の鶴林寺に向かいます。鶴林寺は五百八十七年に聖徳太子が精舎を建立され刀田山四天王寺聖霊院と名付けられたのが寺の始まりであると伝えられています。

鎌倉、室町時代には寺坊三十数カ寺、寺領二万五千石を数えたが、信長や秀吉の弾圧、江戸時代の厳しい宗教政策等で衰微していっ

たというような歴史や、鶴林寺の建物に見られるさまざまな建築様式の話、などを国宝の本堂の中で御住職が詳しく丁寧に説明され、宝物館でも「あいたた観音」といわれる金堂聖観音立像をはじめ展示されている仏像や画像についてご説明をいただきました。

館ではちょうどNHK大河ドラマの黒田官兵衛と鶴林寺と題した特別展も開催されており、鶴林寺に残る文書が展示紹介されていました。

もっとゆつくりしたいところでしたが、時間が午後四時ということで、ご住職の御見送りを受け、帰途につきます。途中、三木のSAで休憩とお土産の買い物をし、皆元気に事故もなく京都駅八条口に戻ってきました。

編集後記

昨年の四月より当協会の事務所及び講演、研修会場が、インターナショナル・アカデミーの閉鎖に伴い、森清史顧問の御好意により旅館「銀閣」に移転して一年がたちました。

今年度も従前と変わらず、スムーズに諸事業を進めることが出来たのではと感謝しております。平成二十七年度も充実した内容で活動を進めるべく、皆様のご意見、ご要望をどうぞお知らせください。

